

漢字は国際文字になれる

“国際文字”と言えば、大抵の人が頭に浮かべるのはローマ字だと思います。確かに、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語など、ヨーロッパを発祥の地とする言語は、すべてローマ字を使って表記されますし、それ以外の言語、たとえば日本語や中国語もローマ字で表記することは可能です。

ところが、それは単に音声として表記が可能だということであって、ローマ字で書かれた日本語は、日本語がわかる人には理解できますが、日本語がわからない人にはさっぱり理解できません。同様に、ローマ字で書かれた中国語は、中国語がわかる人には理解できますが、中国語がわからない人にはまったく理解できません。つまり、国際文字というものを「世界中の誰もが読んで理解できる文字」であるとするなら、ローマ字は国際文字としてはまったく用をなさないのです。

現時点で、国際文字と呼べるものは「1、2、3……」といったアラビア数字だけでしょう。アラビア数字は、ローマ字のような表音文字ではなくて表意文字です。だから、日本人はこれを日本語で読み、英米人はこれを英語で読み、中国人はこれを中国語で読むというように、世界中の人が皆、自分の国の言葉でこれを読むことができ、世界中の誰が書いた数字でも、正しく理解できるのです。

では、アラビア数字と同じ表意文字である漢字は、どうでしょうか。もともと漢字は、中国語を表すために作られた文字です。しかし、私

たち日本人は、これを日本語を表す文字として使っており、“山”という字を見れば日本語で“ヤマ”と読みます。ということは、日本人が漢字を日本語で読むことができるように、世界中の人が皆、漢字を自分の国の言葉で読むことが可能だということです。たとえば、英米人は“山”をマウンテンと読めばよく、フランス人はモンとフランス語で読めばよいのです。

このような理由から私は、漢字こそが国際文字としての資格をもつ文字であると考えています。

ドーマン博士にも「アメリカの子どもでも、マウンテンという英語を mountain という綴りで学習するよりも“山”という漢字で学習したほうがやさしい」と述べており、実際、その学習効果も確かめられています。